

## 国民健康保険の現状と課題は

### 特定健診の受診を向上させたい

野元 三天 議員



**問** 国保会計が健全運営で  
きないとして、平成26年度  
より1世帯当たり平均22%  
の国保税率引き上げを行い  
現在に至っている。  
昨年度から現在に至るま  
での運営状況は。  
また、健全運営を続ける  
ために町はどのような対策  
を行なっているか。

**保健福祉課長**  
25年度からの推移は、医  
療費などの大幅な伸びによ  
り1億円の基金全てを取り  
崩し、26年度は税率の引き  
上げと一般会計から2千万  
円の法定外繰り入れをした  
結果、1億9千万円が繰越  
となった。  
27年度は医療費の支払い  
が9月現在、前年度と比較  
し2割程低くなっているが、  
冬に医療費が高くなる傾向  
があり、繰越金や予備費が  
あることをもって余裕があ



健康実践セミナー

るとい判断はできない。  
シエネリック医薬品は昨  
年度と比較すると、利用率  
は上がっている。住民啓発  
のため28年1月にシエネリ  
ック医薬品使用時と、そつ  
でない場合の差額通知の発  
送を予定している。  
レセプト（医療報酬明細  
書）点検では、同じ病名で  
重複通院し同様の薬が処方  
されている場合、保健師が  
訪問し病状など確認してい  
る。  
特定健診受診率は年々向  
上しているが県平均よりは  
低いので、今後受診率を向  
上させ生活習慣病を予防す  
ることも、早期治療と重  
症化予防を図り医療費の抑  
制につなげていきたい。

## 認知症対策は

### オレンジプランを推進

奥田 敏治 議員



**問** 今、高齢者の5人に一  
人が認知症になると言われ  
ている。そこで、御代田町  
ではどのような対策を考え  
ているか聞きたい。  
1. 軽度認知症について  
2. 認知症サポーターにつ  
いて  
3. 認知症の方の介護度が  
低いと聞けが、その対策は

**保健福祉課長**  
1. 町では、チェックリス  
トを皆様に配布して、その  
中で認知機能が低い方を把  
握すること。家族から  
の相談、地域の民生委員  
からの相談などで地域包括  
センターに情報が入り、そ  
の時点で職員が訪問して状  
況把握している。  
認知症の方がどのくらい  
いるかのことだが数値的  
には答えられない、若年性  
認知症についても同じで答  
えられない。



はつらつ介護予防教室

2. 認知症サポーターは、  
厚生労働省が国家戦略とし  
て、オレンジプランとして  
関係省庁と共同で平成29年  
度末までに800万人の認知症  
サポーターを養成し、活動  
を支援することとしている。  
9月末で650万人が既に養成  
されている。当町において  
は、今まで35回養成講座を  
開催し、1千92名の養成を  
しており、県の養成率5.9%  
に対し、当町は12%と比較  
的進んでいる。  
認知症の方、軽度の方も  
含め、適切な要介護認定に  
より、適切な支援を受ける  
ことが重要である。今後も  
調査員の資質向上に努めた  
い。

## 内部障害者に優しいまちづくりを

### 駐車場にハートプラスマークの標示を検討

池田 るみ 議員



**問** 心臓や腎臓、肺など体  
の内部に障害がある内部障  
害者の方は、外見からでは  
わかりにくく理解があまり  
進んでいない。内部障害者  
の方の障害について、理解  
が広がり安心して生活が出  
来るように、ハートプラス  
マークカードの配布や公共  
施設への内部障害者用の駐  
車場の設置などについての  
考えを聞つ。

**保健福祉課長**  
ハートプラスマークは、  
内部障害、内部疾患といつ  
ハンディが一般的にはまた  
十分理解されていないこと  
から、その存在を視覚的に  
示し、理解の第一歩とする  
ために、身体障害者用の車  
椅子のマークのようなもの  
があったら良いという思い  
から生まれたマークである  
と認識している。  
御代田町の身体障害者手



新たに標示されたマーク

帳所持者は11月1日現在で  
590名で、うち内部障害者は  
145名である。  
内部障害、内部疾患のあ  
る方は、外見からではわか  
りにくい。誤解を受け  
ることも考えられる。今後  
は、内部障害者の手帳取得  
者にハートプラスマークの  
案内をしていく。  
また、希望がある方には  
カードを渡すことも可能で  
ある。  
現在、役場、エコーのみ  
また、保健福祉課の駐車場  
に障害者用スペースを設  
置している。  
今後、ハートプラスマー  
クの標示についても検討を  
していく。

## 担い手不足農地の対策は

### 集約化モデル事業を検討

小井土 哲雄 議員



**問** 当町においても農業に  
携わる方々の高齢化、ある  
いは担い手不足により利用  
されない農地が増加してい  
ると思われる。その歯止め  
と解消に行政が深く関与す  
べきと考えるが、これまで  
の経緯と今後の方針は。  
更に台帳が有効利用され  
ているか疑問であるが、そ  
のあり方は。

**産業経済課長**  
耕作放棄地の減少や農業  
の競争力強化・担い手への  
農地集積・集約化などを促  
進するために、都道府県こ  
とに農地中間管理機構を創  
設することになった。  
広い面積を集約できるこ  
とが理想であり、町内の現  
状を見ると元気な後継者が  
いたり、構造改善されたこ  
ころでは後継者が大勢いる  
状況である。  
県と相談する中、小田井



集約化検討の水田

の水田が現状高齢化が進み  
後継者も少なく、兼業農家  
でなかなか農作業ができな  
い方も多くいる状況で、県  
普及センターと管理機構と  
相談するなかで、小田井地  
区の水田を集約化モデル事  
業として検討を開始した。  
遊休農地の確認について  
は、毎年町で荒廃農地の解  
消に関する調査を実施し、  
その結果をエクセル表にお  
いて1筆ずつ管理している。  
別に農業委員会でも毎年  
農地利用状況調査、農地パ  
トロールを行っており、そ  
の結果は役場内の農地台帳  
システムに反映されている。